

日本健康学会の英語名は、Japanese Society of Health and Human Ecology, 直訳すれば日本健康・人類生態学会であり、プラネタリーヘルス、ワンヘルスとの親和性が高い。今回の総会では、SDGs, ワンヘルス, 気候変動に関わるシンポジウムが行われ、ヒトを含めた広く地球規模の健康が議論された。(林 玲子 記)

東京確率論セミナー 招待講演

2025年10月20日、東京大学で開催された「東京確率論セミナー」において、「Fredholm Integral Equations and Eigenstructure: Genealogical Expansions via Non-Hilbert-Schmidt Solutions」という題目で招待講演を行った。本講演では、ヒルベルト・シュミット条件を超えた設定でのFredholm 積分方程式の固有構造を、Fredholm 行列式を用いない系譜展開によって構成する新しい理論を紹介した。講演は板書形式で行い、積分方程式の解析的構造や、マルコフ連鎖のタブー確率との対応を詳説した。さらに、部分ベル多項式や分岐過程の展開に関連して、確率論の専門家から多くの関心と質問が寄せられ、数理人口学と確率論の新たな接点を提示する討論が行われた。参加者との議論を通じ、Fredholm 理論の枠組みが進化過程や系譜的記憶の数理解に拡張可能であることを確認できた意義深い機会となった。(大泉 嶺 記)

第84回日本公衆衛生学会総会

第84回日本公衆衛生学会総会は、10/29（水）～10/31（金）に静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ：静岡県静岡市）において開催された。筆者は本学会に初めて参加したが、本学会の80年以上の歴史の中で初めて静岡県での開催になったということである。

研究所からは、林所長と筆者がシンポジウム「へき地医療の新たな展望～へき地の現状と人口動態に基づく医療ニーズ分析から～」に登壇し、報告を行った。本シンポジウムは、林所長と筆者が研究分担者として参加している厚労科研「へき地医療の現状把握と人口動態に基づく医療ニーズを考慮した将来のへき地医療体制の構築に資する調査研究」（令和6～8年度：研究代表者：菖蒲川由郷特任教授（新潟大学））の研究成果を報告する場として位置づけられる。本シンポジウムのプログラムは下記のとおりであり、菖蒲川特任教授と宮田潤助教（長崎大学）が座長を務めた。

- ・菖蒲川由郷「無医地区の現状と再定義の検討」
- ・林玲子「へき地と非へき地で健康格差はあるのか？－歴史的推移を踏まえて」
- ・杉田義博（日光市民病院）「厚生労働省へき地医療現況調査の分析と新たなへき地診療所・へき地医療拠点病院に対する調査」
- ・小池司朗「過疎地域における将来人口見通しと旧市町村別人口分析」

へき地医療にまつわる課題は山積しているが、本シンポジウムでは多角的な観点からの報告が行われるとともに、活発な質疑応答が交わされ、厚労科研プロジェクト全体にとっても大変有意義な機会となった。

上記のほか、研究所からは林所長が「NDB データによる日本の疾病統計－ICD-11疾病分類別の患者数と複合傷病構造」というタイトルでポスター報告も行った。(小池司朗 記)